



二十四節気：3月5日(土) 啓蟄(けいちつ)

土の中で縮こまっていた虫(蟄)が穴を開いて(啓いて)動き出す日のことです。

昔の人は、われわれも「さぁ活動するぞ」と区切りをつける日としていました。この時期は、一雨降るごとに気温が上がり春に近づきます。

念(おも)いを受け継ぐ

— 母校を愛する気持ちを育てる —

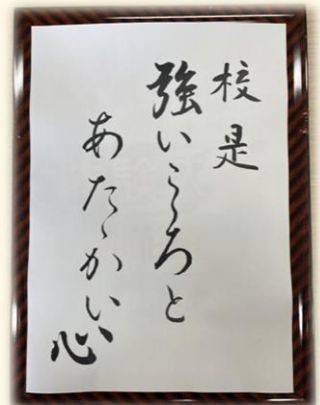
昨日、第62回卒業証書授与式を挙行了しました。立派に成長した152名が本校を巣立ちました。本校は昭和24年4月(1949年)に福岡県立若松高等学校に併置された商業課程を源流として、昭和35年4月(1960年)福岡県立若松商業高等学校として分離独立しました。この地にて船出し商業教育の本流(ほんりゅう)を、昭和・平成・令和の時代を62年間突き進んできました。これまでに14000名あまりの卒業生が本校から巣立ち、地域社会をはじめ、全国そして世界の各分野で活躍されております。

卒業後はそれぞれの道を歩みますが、実社会において活動する際、さまざまな場面で応援してくれるのが同窓の先輩方です。その組織が同窓会です。本校は「彩雲会(あやぐもかい)」と言います。大学では一橋大学「如水会」、慶応義塾大「三田会」などが有名です。

社会人となれば、どのような職業に就いても困難なことや難しい課題が必ずあります。同窓の先輩方は後輩達を自分の弟や妹、時には我が子と思い見返りを求めない無償の応援をしてくれます。それは、時は違えども同じ空間で同じ教えを受けたもの同士の絆です。そして、絆を支える基となるものは校訓や校是であると言えます。学校は時代が変わっても教育方針は不動なものであり、校訓と校是を旨(むね：中心とすること)とした教育活動を行います。

本校初代校長である安田三吾先生は「自立・創造・協力」の校訓を具現化させるため、その指針として「強いところ」と「あたたかい心」を校是として示されました。生徒たちが社会の荒波を乗り越えることができる「強いところ」を育む。そのころを育むために教職員は厳しくも「あたたかい心」をもって導く。このように教えられました。

60年前に初代校長先生が揮毫(きごう)された校是額を各教室に掲示します。卒業生は母校との絆を大切に若商の精神を継承し、誇り高く未来へと進んでいきます。在校生の皆さんは先輩方が60年以上連綿(れんめん)と繋いだ本校の魂をしっかりと受け継ぐことを心から期待しています。



入学予定者指導について

— 若商の未来をになう —

本年度入試から特色化選抜を導入しました。4月から本校において簿記や情報処理などの高度な資格取得に意欲的な生徒と、商業高校にしかできない地域活性化の立案や商品開発などに意欲的な生徒が入学してきます。中学生が高校入学後、本校の教育方針や学習内容を理解し主体的に学習活動に取り組めるよう入学前指導等を計4回実施します。

- 第1回—2月—5日(土) (特色化選抜内定者のみ)—
- 第2回—2月—9日(土) (特色化選抜及び推薦入学内定者)—
- 第3回 3月12日(土) (特色化選抜及び推薦入学内定者)
- 第4回 3月16日(水) (内定者全員)

本気で生徒を伸ばす本校の教育活動を、中学校では高い評価をいただいています。在校生の皆さんは、先輩として模範を示す態度で新年度を迎えましょう。

